

# じっくり心をこめて

# スロー フード

75



## しいたけのでんがく

関川村はしいたけの菌床栽培が盛んで、県内第2位の生産量を誇っています。甘辛いみそだれが香ばしく、ご飯が進む一品です。

## 《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

### 材 料 (4人分)

・生しいたけ 8個

#### 【A】

・豚ひき肉 200g    ・卵 1個    ・酒大さじ 1/2  
・ねぎのみじん切り 大さじ2    ・塩コショウ少々

#### 【B】

・みそ 大さじ3    ・すりごま  
・砂糖、酒 各大さじ1

### 作り方

生しいたけの石づきを取り、Aの材料を詰め、180度に温めたオーブンで5分ほど焼く。

Bの材料を混ぜ合わせたものを にぬり、さらにオーブンで5分ほど焼く。

(魚焼きグリルでも結構です)

## せきかわ文芸

### 短歌

夕焼けの歌に帰りき子等達に曾孫も

須貝 恵美

笑顔で明日も天気と

(高田)

堤防の左に柳右さくら月を仰いで

佐藤 庄七

夕陽を負って

(愛広苑)

校庭は桜の花のまつ盛り山峡の春

小池 啓子

廃校に桜

(下関)

咲き盛る蓮華つじの朱に触れて命の

渡辺千恵子

色をまぶしむ吾は

(上関)

満開のさくらに五月の風渡りひるがえり

山口 藤枝

つつ吹雪は

(辰田新)



# 近・現代 関川郷の人びと

執筆：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

小池 マコト  
(下関在住)



小池マコトさんは二十年の長きにわたり、せきかわ「高齢化社会をよくする会」の会長を務め、福祉社会の実現に情熱を傾け熱心に活動を続けた。大正十四年十二月二日村上市山田（旧

神林村）に近友居の三女として生まれた。新潟県立村上高等学校を経て昭和十九年三月和洋女子専門学校専門部本科（現和洋女子大学）を卒業。同年十二月十四日関川村下関の小池寿哉さんと結婚。花婿は兵役に服していたので写真を飾つての祝言であった。昭和二十八年四月新潟県立村上高校の家庭科担当教員に採用され、昭和五十六年三月まで二十八年間にわたつて職務に精励。特に昭和三十三年四月から十年間村上高校関川分校で村の働きながら学ぶ生徒の教育に尽力した。

小池さんの新しい社会実現への取組みは在職中からで、高校で家庭科を担当し、「家庭科男女共修を考える会」のメンバーに参加し他にさきがけて実践を試みていた。退職後、高齢化社会の問題に関心をもち、昭和五十六年国立婦人教育会館主催の論文募集に応募。「高齢化社会の中の私達の課題」が入選を果した。そして全国婦人教育交流集會に参加し研修の機会を得たことで一層高齢者社会の問題に関心を深めた。

昭和五十八年四月実践活動の第一歩として、高齢化社会に関するアンケート調査を実施。それをもとに「高齢化社会を考える集い」を開催。そしてついに昭和六十一年八月「高齢化社会をよくする会」（後に高齢社会をよくする会に改名）を設立。会員は村内の主婦を中心に男性も含めて三十人であった。会の目標、活動内容、会則などを定め活動を開始した。会員数は年々増加し、平成七年度は六十名を超えた。活動内容は勉強会、講演会、奉仕活動のほか目的達成のために行政への働きかけなどであった。特筆すべきことは昭和六十三年十一月二十八日関川村長宛に、「多目的高齢者福祉センターの設置」と「必要職員の確保、ホームヘルパーの増員、施設設備・備品等の充実」についての要望書を提出した。

## せきかわ文芸

### 関川俳句の会作品

満開の桜に会おう今日の陽に

渡辺しづい

子供の日母手づくりの五目寿し

南 セツ

花にらの黄色際立つてんてんと

渋谷 くに

遠会積かえす四温の硝子越し

五十嵐貞子

老足を草若葉笑う畦の道

佐藤 ノブ

寒暖に着せ替えのごとこの五月

青木 慶一

### せきかわ柳会作品「答え」「減る」

暗算がひよっと出て来ぬ脳となり

渡辺しづい

少子化の未来気になる長寿国

平田 千恵

畑仕事体力の減り知らされる

南 セツ

答えよき孫に安堵の愚痴の数

佐藤 ノブ

検診で数値あらず背の丸み

本間 イミ

先祖 八代

与惣兵衛：省造 寿哉

近 友居 マコト

・参考文献

結成十周年記念誌

結成二十周年記念誌